



ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取
第1回 現地情報共有・連携会議

鳥取県の地域防災の取り組み

～「災害時にも、とり残される人がいない」地域を目指して～

2026年 4月 6日 (月曜日)

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

鳥取県災害福祉支援センター 災害支援専門官 白鳥孝太



しら とり こう た
白鳥孝太

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
鳥取県災害福祉支援センター 災害支援専門官
鳥取県自主防災活動アドバイザー
子ども安全管理士 (一般社団法人 吉川慎之介記念基金)
防災士

「阪神・淡路大震災」(1995年)で支援活動を経験。2005年から国際NGO団体に所属、災害支援を担当。国内外の被災地や紛争地で緊急救援物資の提供、避難所の運営支援、行政の支援、被災者の生活復興支援等に従事。2017年以降、鳥取県中部地震の被災者支援を担当。現在、鳥取県が県社会福祉協議会に設置した鳥取県災害福祉支援センターに勤務。

とっどりの地域防災の取り組み

① 自主防災組織 2,483 団体 (令和7年4月1日)

西部地震や中部地震などの経験から住民による自主防災活動の重要性が再認識された。組織率は94%。

② 防災士 2,220 人 (令和8年3月末)

県と市町村は平成21年から育成に取り組む。現在、5市町村+県域の「防災士ネットワーク」がある。

③ 大学生の防災活動 × 3団体

鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学には、それぞれ学生防災サークルがある。

④ 「支え愛マップ」作成 2,889地区

住民主体の防災福祉マップの取り組みは、平成22年から始まり16年間で県全体の作成率は36.8%

⑤ 県内各地の地域の取り組み

小学校での「避難所宿泊体験」や公民館主催の防災キャンプなど各地で住民による取り組みがある。

鳥取県災害福祉支援センターの設立

Ver. 04

災害福祉支援センター設置の目的

災害時の福祉的な支援活動を進めるために鳥取県が、

2021年(令和3年)4月1日に社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会内に設置。

災害から命とくらしを守るために大切な「声のかけあい」や「助けあい」などの活動は普段からの関係づくりや地域の取り組みの延長上にあるため、住民組織や市町村行政、福祉団体、社会福祉協議会などの取り組みを支援する常設のセンターとして設置された。

「災害時にも、とり残される人がいない」地域づくりを目指す。



鳥取県立 福祉人材研修センター

鳥取県社協 (災害福祉支援センター事務局)

センター 開所式 (2021年4月1日)

鳥取県災害福祉支援センターの役割

Ver. 04

災害福祉支援センターの活動

① 災害派遣福祉チーム（DWAT）の組成

福祉専門職等による「災害派遣福祉チーム」(DWAT)を被災地に派遣。避難所などで要配慮者を支援につなぐ役割や避難生活の環境改善などを担う。平時はチーム員の人材育成研修、訓練等を実施。登録者数は231人(2025年9月1日時点)

② 災害ケースマネジメントの普及

鳥取県中部地震から始まった「とり残される人」を出さない被災者支援の取り組み。市町村や社協などを中心に、様々な職業や多機関の協力をつないで被災者の生活再建を支える「災害ケースマネジメント」の普及を平時から行う。

③ 災害ボランティア活動の強化

支援を必要とする被災者とボランティアをつないで支える「災害ボランティアセンター」の開設と運営を支援する。平時は、災害ボランティア活動の研修や訓練、県域での災害支援関係者間での「顔の見える関係づくり」に取り組む。

④ 防災福祉教育の実施

小中学生や地域住民などを対象に、過去の災害から「いのちの大切さ」や「普段から自分達にできること」を考える機会を提供する。お互いに「声をかけあい」「協力しあえる」普段からの地域づくりと暮らしの大切さを伝える。

⑤ 災害支援ネットワークの拡充

普段も災害時にも「お互いに助け合える社会」を目指し、住民と行政、福祉関係者や福祉法人、障がい者関係団体、企業やNPO、市民活動団体などが互いに連携協働して活動できるよう「顔の見えるネットワーク」づくりに取り組む。

ささ あい

「支え愛マップ」

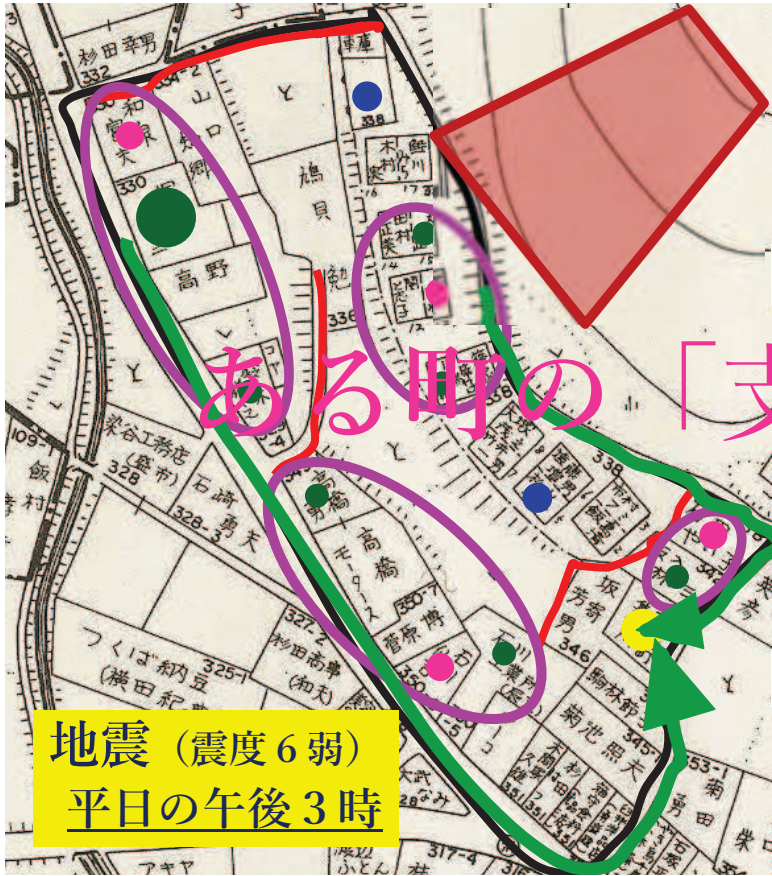
～ 鳥取県と社会福祉協議会がおすすめする地域の取り組み～



「支え愛マップ」づくり
鳥取県が進める「地域の支え合いの輪」



「支え愛マップ」 (防災福祉マップ)



- ① 集落の範囲を黒マジックで囲む。
- ② 災害の設定を皆で決める (種類や日時)。
- ③ 「避難場所」に●黄色のシールを貼る。
- ④ 「空き家」に●青色のシールを貼る。
- ⑤ 「声かけ」が必要なお宅に●ピンクシールを貼る。
- ⑥ 区長や民生委員のお宅に●緑シールを貼る。
- ⑦ 他にも協力ができるお宅に●緑シールを貼る。
- ⑧ 危険と思われる場所を赤マジックで書く。
- ⑨ 「土砂災害」の想定範囲に茶色マジックで書く。
- ⑩ 避難所するグループを紫マジックで囲む。
- ⑪ 避難場所までの安全な道のりを緑マジックで書く。

支え愛マップ
いざというときにも
「声をかけあう」ことが
出来る地域づくり

支え愛マップって？

支え愛マップとは、災害時に誰かの手助け・声かけを必要とする人、声かけができる人、避難先など、一連の情報を盛り込んだ地図のことです。

支え愛マップはつくることだけが目的ではなく、地域のことを話し合う中で、「日ごろからのつながり・支え合い」を考えてもらうことを大切にしています。



「支え愛マップ」パンフレット

支え愛マップづくりのながれ

- ① まずは、お近くの社会福祉協議会に相談
- ② 支え愛マップづくりの説明・自治会での打合せ
- ③ 地域みんなで「支え愛マップ」づくり

- 支え愛マップの説明
- 集落内の気になる場所を確認(まちあるき)
- マップづくり
- ふりがえり

支え愛マップづくりの準備物(例)

- ・マップ作成用白地図(社協に相談ください)
- ・地図を重ねる透明シート・セロテープ
- ・油性マジック
- ・丸シール

- ④ 支え愛マップの活用とその後の取り組み

- 見守り活動・支え愛活動
 - 支え愛活動とは・・・
 - 暮らしの中のちょっとした困りごとを支え合う活動のこと
- 地域支え愛会議
 - 地域支え愛会議とは・・・
 - みんなで定期的集まって、地域のことを話し合う場のこと
- 避難訓練



支え愛マップづくりから生まれた声

【参加者の声】

- 声かけしてくれる人との距離が
できるように私も準備しておきたい
- 災害が起きたら怖いし、
備わがなくて困らうらしい
- 高齢で元気な人もいれば、
助けてもらいたい
- 災害時だけでなく、
日ごろから声かけをしたい
- 普段から気軽に集まれる場所が
あったらいい!
- できることから少しずつ
取り組んでみたい!

その後の取り組み事例

【地域での交流】

支え愛マップづくりと避難訓練をしたところ、幅広い世代から参加があり、あまり交流がなかった世代間にも交流のきっかけが生まれ、サロン活動がはじまりました。また、市内を運行するバスを利用し、自治会内の高齢者が集まって新しい集まり「新しい集まり」もはじまりました。



ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取
第1回 現地情報共有・連携会議

いのちをまもるために
たいせつなこと

地域でできること

話し合いの機会をつくること





～ ご参加される全国のみなさまへ ～

・・・ぜひ、一緒に考えて頂きたい 防 災 のテーマ

いのちを守るために必要なこと

「お互いに、声をかけ合える」

地 域 づ ぐ り



～ ご参加される全国のみなさまへ ～

・・・ぜひ、一緒に考えて頂きたい 防 災 のテーマ

● ● ● ● ●
災害時にも、とり残される人がいない

地 域 づ ぐ り



ご参加される全国のみなさまへ

ぜひ、鳥取県へ

「きなんせ！」

「きなんしょ！！」

「来てごしない！！」